



グループ名: キューバ合気道 八剣会

創立:
2015年

代表者:
ホセ・マヌエル・バルバ・
カルタヤ

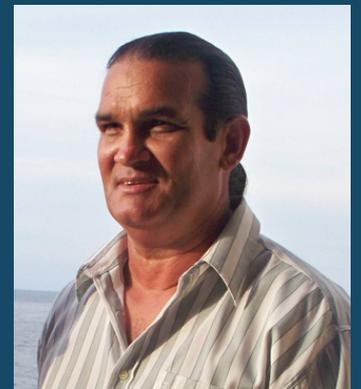
活動内容:
合気道（合気会）の指導とコ
ミュニティー・プロジェクト

ホセ・マヌエル・バルバ・カルタヤさんへのインタビュー

ホセ・マヌエル・バルバ・カルタヤさんは、キューバ合気道合気会連合の創設者であり、現会長です。合気道の指導者として活動し、4段を取得しています。また、ハバナ東部のコヒマルでコミュニティー・プロジェクト「Sembrando Hombres」（種まく人）を推進しています。

バルバさん —この記事では、合気道の指導者としての敬意を込めて、バルバ先生と呼ぶことにしましょう— と一緒にコヒマル近辺を歩いていると、ことあるごとに地元の人に挨拶され、かのヘミングウェイが愛したこの町で、先生がどんな人なのか、彼らが先生に寄せる愛情や敬意に、否応なしに気づかされるのです。

「1960年代に近所の映画館で上映されたサムライ映画を見たとき、とても感動しました。戦い、刀・槍・弓矢を使った技、衣服、日本庭園、住居のデザイン・・・すべてにです。」侍の世界に感銘を受けたバルバ先生は、中学生であった1970年代初頭、日系人の多く住む青年の島に奨学生として渡る機会に恵まれ、日系人コミュニティーと知り合える可能性に胸を躍らせた。卒業後すぐに、若い教師を育成する、という国からの呼びかけに応じ、青年の島の学校で教え始めたところ、なんとその生徒たちは日系人だったのです。バルバ先生は彼らと直接知り合い、日本の習慣、歴史、伝統を知ることができました。そして現在も、彼らとの親交を深めています。



合気道の創設とコミュニティー・プロジェクト「Sembrando Hombres」の始まり

バルバ先生が合気道と出会ったのは、全くの偶然でした。友人たちが合気道の創始者、植芝盛平氏のビデオを見せてくれたのです。「動きの俊敏性やコントロール、そして道着も映画に出てくる待にととてもよく似ていたと記憶しています。高齢にもかかわらず保ち続けている彼（植芝先生）の技術にはとても感心しました。」そしてこの出会いが、コミュニティー・プロジェクト「Sembrando Hombres」へのインスピレーションとなったのです。「合気道の理念と稽古を一般の人々に伝えると同時に、ライフスタイルの改善や、体調を整えるなど、あらゆる意図を持ってこのプロジェクトは設計されています」とバルバ先生は語ります。2015年から、このコミュニティー・プロジェクトの活動の1つとして、バルバ先生は近隣の高齢者や中高年の方々と朝の体操を実施しています。



毎日午前8時になると、彼は今や家族のようになった生徒たちと集まり、合気道の杖を使って、この武術の基礎となる多くの準備運動を行います。時にジョークや日本語での指示を交えながら、生徒たちと楽しく練習が行われるのです。



コミュニティー・プロジェクト「Sembrando Hombres」コヒマル 2022

このプロジェクトのインストラクターであるクラリベル氏は、「体を動かすだけでなく、バルバ先生は、私たちに交流の場とモチベーションを与えてくれました。それはとても大切なことです」と説明します。また、誕生日や祝日には、踊ったり歌ったり、みんなで集まって楽しい時間を過ごしています。このような活動には、バルバ先生の隣人であり友人でもある、トロバ歌手のラウル・トーレス氏（キューバ・日本友好議員連盟の副会長）も頻繁に参加しています。この取り組みは、毎日昇るオレンジ色の朝日の光の中で、間違いなく近隣の人々に笑顔を与えています。

キューバ合気道八剣会設立のきっかけと経緯

合気道を始めて数年経ったある日、バルバ先生はその後の人生を左右する電話を受けたのです。「ある合気道の先生があなたに会って話したいと言っている」とプラサホテルで働く友人から、電話でそう告げられました。ホテルのロビーでバルバ先生は、野本純師範（7段）と会い、キューバでの合気道活動について話し、翌年2015年に野本師範が再びキューバに戻ることを約束したのです。野本師範の2度目の訪問後、キューバ合気道八剣会は合気道団体として設立され、彼らの熱心な活動により、2020年に公益財団法人合気会の合気道本部道場の認定を受けて、国際合気道合気会連盟（IAF）に加盟できるようになりました。IAFはキューバに関心を持ち、キューバ合気道八剣会を傘下組織として、同国の他の合気会組織と覚書を交わすよう指示しました。合気道も他の武道と同じようにさまざまなスタイルがあるので、すべての指導者が同じ考えを持っているわけではなく、誰がキューバ合気道を代表するのかを決めるのは簡単なことではありませんでしたが、2020年5月にバルバ先生が会長となり、キューバ合気道合気会連合（UCAA）を作りました。



“

「UCAAの創設に伴う私たちの使命は、人々に武術の健全な練習に興味をもってもらい、人々の争いを避け、平和と調和を促進することです」



キューバ合気道の現在

キューバにおいて合気道は1990年代に放映されたスティーブン・セガール氏（7段保持者）の映画で認知されるようになりました。面白いことに、バルバ先生はスティーブン・セガール氏と身体的な特徴がよく似ており、この俳優を彷彿とさせます。

「UCAAの創設に伴う私たちの使命は、人々に武術の健全な練習に興味をもってもらい、人々の争いを避け、平和と調和を促進することです」とバルバ先生は語ります。

将来を見据えて

バルバ先生率いる「Sembrando Hombres」プロジェクトの活動は、朝の体操だけにとどまりません。コヒマルの旧名門ホテル跡に隣接する果樹園にも、バルバ先生の足跡がしっかり残っています。「もう一度、井戸の問題を見直そう」と、商品担当者に言ってから別れを告げます。この果樹園で、合気道の理念である「稽古する人と農業を結ぶ」ソーシャルワークを行うことも、このプロジェクトの一環です。この活動は、双方にとって有益なものでもあります。

「Sembrando Hombres」のメンバーには合気道家も加わり、コヒマルの海岸の清掃、アジアの家での文化活動、ハバナ国際図書展の日本ブース、総合スポーツ施設「ビジャ・パンアメリカーナ」アートギャラリーでのワークショップ等、様々な活動に参加しています。

バルバ先生は、日本についての勉強も欠かしません。つい最近も倉敷市に「児島（Kojima）」という地名があることを知り、海岸と漁業の町である「コヒマル（Cojímar）」と、アルファベットの綴りだけでなく、いろいろな部分が似ていることを発見して以来、漁業、風習、料理、海岸の清掃など、両町の交流に夢を膨らませています。

「日本についてできるだけ多くのことを伝え、両国の文化や合気道の理念の間にあるものを示していきたいです」とバルバ先生は言います。「おはようございます」「ありがとうございます」という日本語での挨拶は、グループの活動の中でとてもよく使われます。まるで健康と幸せのおまじないのようですね。

現在、キューバにはこの考えを共有する約200人の実践者と20人の指導者がいます。キューバでは道着や畳など入手困難なものもありますが、芝生の上や建物の下場所、家の中のスペースなど、多くの人が工夫しながら練習を続けています。「私の最終的な目標は、合気道に必要な条件を備えた道場を持ち、礼儀作法、個人の倫理観・道徳観の形成、人生への準備、そして何よりも、規律正しく勤勉で健康な人間を形成するための教育ができるようにすることです」と力強く言います。

